2024年連続公開講演会　開催趣旨
統一テーマ：AIと信仰・宗教・思想

■開催趣旨

「人工知能（AI）なら人類の課題をすべて解決してくれる」「AI が人類の知能を超えたとき、人類は生き残れるのか」。デジタル時代を生きる多くの人びとが、AI に対して絶対的な信頼を寄せる一方で、その圧倒力に漠然とした不安を抱えるようになった。そこで垣間見えるのは、知能（あるいは知性）の外部化に踊らされ、自らの生きる「よすが」としての宗教的・思想的基盤を失いかけている人びとの姿である。いま私たちに求められるのは、たんにAIという人工物を人間と比較し、その「知性」に優劣をつけ、あるいは代替可能かどうかを論じることではない。むしろ、そこで見過ごされてきた問い、すなわち人類にとってそもそも「知性」とは何なのか、そして、人類はなぜ自らの宗教的・思想的基盤を揺るがしているのか、という問いに向き合うことではないだろうか。物理学者アナトーリ・A・ログノフ博士と東洋哲学研究所創立者の池田大作先生は、対談集『科学と宗教』（1994 年）のなかで、知性と精神の錬磨によって人間は創造的人生を歩むことができ、そこから何かをなしとげる力が生まれることを確認している。本対談から言える課題は、AI といった科学の産物が、本来この人間の知性と精神の本然的な発露である「創造性」から生まれるべきことを、人びとが忘れてしまっている点。そして、AI に携わる者をはじめ多くの人びとが、未知なるものへの畏敬の念と自らの知に対する謙虚さを失ってしまっている点、である。両対談者は、科学と宗教が、人類の精神的な営為の大いなる営みの連鎖のなかで、協調しつつ発展し、人類の幸福に貢献すべきであると語った。人間の「生の営み」から科学と宗教を捉えようとした本対談より 30 年が経ったいま、あらためて、人間の生や人間の本質を問い直しながら、科学とりわけ AI の課題に向き合う必要を問うていく。

以上